

作文犬

鶴川第二中学校 二年 白井 樂

僕は作文を書くのが大嫌いだ。どのくらい嫌いかというと、できてしまった口内炎を間違つてかんでしまった時ぐらいだ。本当に嫌いだ。

今年も夏休みが来てしまった。それはつまり作文の宿題があるということだ。今年の作文の宿題は「ことばらんどショートショートコンクール2025」に決めた。最初は自力で頑張ろうとした。「ことばらんど」のホームページで書き方も見てみた。ダメだった。最終手段を使うしかない。「作文犬」だ。

僕はサンゴという犬を飼っている。サンゴは僕の相棒だ。ゲームをするときも横にいて、携帯を見ているときも横にいる。もちろん宿題をするときも。

そんなサンゴが作文犬なのだ。

初めてサンゴが作文犬だと気が付いたのは小学校6年生の夏休み。僕は同じように作文の宿題に取り組んでいた。この時も全く進まなかつた。途中で作文を書くのが嫌になつておやつを食べて、そのままサンゴと昼寝を始めた。しばらくして目が覚めるとサンゴが僕の手をなめていた。おやつの匂いがついていたのだろう。するとさつきまで全く進まなかつた作文がスラスラ書けるようになった。そこで、もしかしてと思い、何度も作文の宿題が出るたびに手をなめさせて確信した。サンゴが作文犬だと。

サンゴに一回手をなめられると七百文字書ける。しかし、今日はサンゴがいびきをかいて昼寝をしていて、起きてくれない。おやつをあげてみたが、食べ終わつたらすぐにまた寝てしまつた。どうしよう。そうだ！僕は手にサンゴの大好物のヨーグルトをべつとり塗つてみた。するとサンゴがヨーグルトに気が付いた。ペロペロと手に付いたヨーグルトが無くなるまでなめてくれた。

「やつた！」

僕は作文をスラスラ書き始めた。

一時間後、作文を終えて、ゲームで遊ぼうと思ったがなぜか作文を書くのをやめられない。

その時、僕は思い出してしまつた。

「サンゴになめられすぎると作文を書き続けなければならなくなつてしまふ」ということを。

ことばらんど賞
臼井楽「作文犬」

審査員講評 *****

冒頭から「口内炎を間違って噛んでしまった時ぐらい嫌い」という表現が光ります。ことばらんどショートショートコンクール自体を作品に登場させるメタ構造も面白かったです。テンポ・リズムがよく、無駄のない完成度。小さなことに見えて、犬の名前が「サン」のがかなりいい味を出しています。

—— 藤岡みなみ